

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402093		
法人名	有限会社 たすかる		
事業所名	グループホーム たすかる		
所在地	〒859-1505 長崎県南島原市深江町戊2975番地6 (電話)0957-72-3499		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年3月16日

【情報提供票より】(平成20年12月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤 7人 非常勤 9人, 常勤換算 5.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費3,000円・実費	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
または1日当たり 1000 円				

(4) 利用者の概要(12月17日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	59歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島原保養院・柴田長庚堂・泉川病院・スマイル歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの庭には、地域の人や入居者を含め関わる人々の心の拠り所として、お釈迦様を入れた八角堂を建立している。その横には桜の木が春の訪れを待ち受けており、木々の下で入居者や職員の楽しい会話する姿が窺える。家族から「たすかる」との言葉が聞けるホームを目指し、今年度は地域に還元する事を考え、現在ホームの横の木を切り、職員の駐車場と、皆が触れ合える公園を建設中である。同一敷地に多機能ホームを持ち、土曜日には開放している。開設当初からの入居者が数名居られ、皆さんの姿から、穏やかに過ごされていることが理解でき、入居者を中心とした生活を楽しんでいる。現状に甘んじる事無く、毎年前進するホームとして、益々期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を向上の一端と考え、メモを取りながらの受審を受けられていた。前回の改善点である、家族への報告は個別の手紙や写真で家族との連絡の充実に努めているが、改善計画シートの作成まで至っていない。評価後は改善計画シートを作成し、計画的に改善に取り組み、達成状況を把握しながら運営の向上に向けた取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は一部の職員で話し合い、管理者が記述し、全職員が閲覧し、意見を聞いている。新人の職員は項目を見る事で、実施状況の理解に繋げている。自己評価を職員の研修の一環として捉え、全員に配布し記述する事で、自己の気付きとスキルアップに反映できる取り組みを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、和やかに様々な意見が飛び交い、特に地域の話は多い。ホームの状況や入居者の様子を伝えて、議事録に記入されているが、内容から参加者の関わりが見えてこない。運営推進会議をホームの運営の向上と考えると、議事内容の計画性が不足しており、会議の議事進行にテーマを持って、建設的な意見が聞けるように、今一度、構成メンバー(案として地域の民生委員の追加)の考慮が望まれる。また、議事録の記述を、それぞれの参加者の意見や回答を含めた、詳細な記述を期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月請求書の送付時に、写真や入居者の生活ぶりや、必要な品物を持ってきていただく伝達事等、を書き込んだ手紙を添えて、現状をお知らせし、家族から喜ばれている。また、病院受診後や状態変化に伴い、必要時には電話で報告している。ホームで預かり金は実施していない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>2ユニットの中心の庭に、お釈迦様が入った八角堂を建立し、地域の人が心の拠り所としてお参りに来られている。また、自治会長が気軽にコピー機を借りに来訪したり、愛犬に餌をやる人等、ホームを訪れる人が多い。関連法人の保育園児や障害者等との触れ合いを含め、ホーム内は基より、中庭を中心として、地域の交流が深まっている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「老いても障害があっても、地域の中で生き生きと安心して生活できるサービスを目指す」と掲げ、住み慣れた地域の中で、人間らしくを基本方針としてつくりあげ、日々の生活の中で実践に向け尽力している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日々のケアを、事故のないように笑顔を絶やさず事無く支援している。理念の文言は、入居者と職員と一緒に生活するうえでの合言葉的ではなく、共有できる文言を考慮中である。		現在の理念は総合的であり、職員の交替を含め、共有にまで至っていない。入居者と職員と一緒に暮らす上で共有できる介護目標になる文言を全職員で話し合い、簡潔で分かり易い、合言葉になるような目標を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ユニットの中心の庭に、お釈迦様を入れた八角堂を建立し、地域の人が心の拠り所としてお参りに来られている。また、自治会長が気軽にコピー機を借りに来訪したり、愛犬に餌をやる人等、ホームに訪れる人が多い。関連法人の保育園児や障害者等との触れ合いを含め、ホーム内は基より、中庭を中心として、地域の交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の職員で話し合い、管理者が記述し、全職員が閲覧し、意見を聞いている。新人の職員は項目を見る事で、実施状況の理解に繋げている。また、前回の改善点である、家族への報告は個別の手紙や写真で家族との連絡の充実に努めているが、改善計画シートの作成まで至っていない。		自己評価を職員の研修の一環として捉え、全員に配布し記述する事で、自己の気付きとスキルアップに反映できる取り組みを期待したい。また改善計画シートを作成し、計画的に改善に取り組み、達成状況を把握しながら運営の向上への取り組みを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、和やかに様々な意見が飛び交い、特に地域の話は多い。ホームの状況や入居者の様子を伝えて、議事録に記入されているが、参加者の関わりが見えてこない。また、地域の情報を幅広く入手するためには、地域の代表の追加も考えている。		運営推進会議をホームの運営の向上と考えると、議事内容の計画性が不足しており、会議の議事進行にテーマを持って、建設的な意見が聞けるように、今一度、構成メンバー(案として地域の民生委員の追加)の考慮が望まれる。また、議事録の記述は、それぞれの参加者の意見や回答を含めた、詳細な記述を期待したい。

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者が民生委員や地域包括支援センターを定期的に訪問する世話役をされていることから、広域市町村圏組合との関わりが多い。また、入居者で公的扶助を利用している人を、福祉事務所の担当者が訪ねており、交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書の送付時に、写真や入居者の生活ぶりや、生活に必要な品物を持って来ていただく伝達事等、を書き込んだ手紙を添えて、現状をお知らせし、家族から喜ばれている。また、受診後や状態変化を含め、必要時には電話で報告している。ホームで預かり金は実施していない。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置や掲示板に相談苦情体制を明示し、入居者やその家族からの意見や要望を傾聴する姿勢を明確にしている。面会する家族は多く、常に声掛けを行い聞いているが、意見や不満を言われる人は少ない。家族アンケートを踏まえて、職員間で検討し、日々のケアの向上に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は約1年に1回の異動や、数名の離職がある。毎月の定例会で意見交換や、年末・年始に親睦会を行い働きやすい環境に配慮している。入居者への配慮は、管理者が変わらない事で、声掛けをしながら、ダメージのないケアに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修で復命による受講時にはレポートを作成し、全員に回覧している。また、関連法人の研修に参加している。内部研修としては、全体会議において実施しているが、報告事項が殆どで、詳細な記録がなく、内容が理解できず、職員の意識の向上にまで至っていない。		全体会議を職員の内部研修の場として捉え、定期的開催し、司会・書記を決め交代制で、自主的に会議を運営する事で、意識向上を図り、ケアの統一・ホームの現状・法令遵守・接遇マナー・服薬や看取りを含めた医療面等における様々な研修の実施を期待したい。また、それに伴う会議録を詳細に記述される事が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの周りには多数のグループホームがあり、入居者と一緒に訪問する事があり、気軽に交流を図っている。研修会に参加して知り合う機会があり、同じ働くもの同士として馴染みの関係になり、新しい情報や相談をする事がある。		

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在は長期入居者が多く、あまり入れ替えはない。入居希望者は病院や関連施設や自宅の場合がある。ホームの見学や体験入居や自宅訪問で理解に繋がっている。入院時は離床が困難な人も、車椅子等に対応し、少人数で細やかな対応ができる、ホームの良い点を活用し、馴染んでその人らしい生活がおくれるよう支援をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者と一緒に過ごす事を楽しみの一環と考え、会話を多くする事で、互いの気持ちの理解に繋がっている。時には分からない言葉や昔話を教えて頂き、支えながら生活をしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者や家族と話し、細やかな状況の把握に努めている。また、入居時に記述して頂く基本情報を基に、課題分析を実施し、現状の理解に繋がっている。新人職員には管理者が情報提供を行い、必ずメモを取りケアに活かしている。今後、一目で分かるケアポイントを記述した書式を作成予定である。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族の主訴に沿って、生活や医療の両面を踏まえ、サービス内容を細やかに位置つけた介護計画を作成している。作成後は家族の理解を得ている。ケース会議は必要時のみに開催し、介護計画作成に職員の関わりが少なく、共有に不安がある。</p>		<p>日々の記録において、計画の実施状況の記述や、ケア会議で、気付きや意向を伝え、職員それぞれが介護計画作成の担い手である自覚を持ち、介護計画を共有しながら、日々のケアに携わることを期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月や状態変化時に見直しを行っている。健康管理日誌(変化は赤字で記入)やモニタリング表(1枚に6ヶ月を記入)や問題点や解決すべき課題を抽出し、次の計画に反映し、現状に即した計画を作成している。今後日々の記録の記入方法(サービス内容に番号で順位付け記入等)の充実に向け変更予定である。</p>		

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族のニーズに沿って、心の拠り所として庭にお釈迦様が入った八角堂の建立・遠方の里帰りへの同行・外食・温泉利用・医療連携・自宅訪問等、可能な限り柔軟に対応し、家族から「たすかる」の言葉が聞ける支援に尽力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医は基より、時には専門医の受診支援をしている。通院が困難な入居者は家族の了解を得て、近隣の医師と相談して変更する事もある。歯科受診はバリアフリーを中心として、利便性を加味して入居者の負担に配慮して選んでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来急変による看取りを行ったことはあるが、それ以外の実施はない。家族には看取りに関する方針を明示し同意を得ている。現時点では医療機関の選定に不安があり、看取りの協力医の確保や職員の関わりに関するホームの方向性が不透明である。		看取りに関しては、家族・医師・ホームが一体となって行うことが必須であり、入居者の変化に伴い、家族の意向は勿論であるが、看取り時に相談・往診が可能な協力医のお願いが早急に必要である。同時に職員の意識付けを含め、ホームが取る方向性を明確にされる事を期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人一人の尊厳を大切にしており、ホームの事は一步外に出ると話さない事を徹底している。また、入居者の前で他の人のことを安易に話さないように努めている。新人職員には、プライバシーについて説明し指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は生活パターンが身につけており、殆ど同じ時間で生活されている。時には体調変化で食事時間の変更や、葬儀への参列・墓参り・美容院と希望があれば取り入れ、可能な限り支援している。		

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業(配膳・下膳・野菜の下拵え等)の出来る事を選んでしている。加齢に伴い、介助や見守りが必要となり、職員は一段落して同じ物を食べている。同じ敷地にある多機能ホームの前の畑で出来た作物が食卓を飾る事が、楽しみとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は通常、月・水・金であり、体調の悪い人以外は、不公平にならないように、順番に配慮して支援している。拒否者には「コーヒーは如何ですか」等、居室から出られるように声掛けには工夫して、清潔保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る事はして頂く事を目標として、庭のごうかき・洗濯物等を仕事としている。また、新聞読み・読書・裁縫・編み物・買い物・多機能ホームに遊びに行く等、趣味や楽しみ事への支援をしており、入居者の活力を引き出す工夫をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春には庭の桜が咲き、触れ合いと語らいの場となり、庭先に出て外気浴ができています。入居者の身体面を考えると全員での外出は困難であるが、ドライブや散歩(オムツの人は排尿の間隔を考慮し)等出来るだけ外出を取り入れている。また、遠方への里帰りの同行・温泉・外食等、独自の取り組みも行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在の入居者は落ち着いて、見守りで対応できており、施錠をする事無く、庭先に出ながら生活している。近隣の住人や商店も、ホームを理解し、協力が得られる関係の確立が出来ている。今後万が一を想定して、写真と特徴を記載した、情報提供用の書類を作成予定である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立会いで、昼・夜を想定した消火・避難訓練を実施している。今年度はAEDの講習受講や、通報装置の訓練を実施している。地域の人にはお知らせをしているが、参加はない。地震・備蓄・持ち出し品等に関する職員間での共有の取り組みは実施されていない。		夜間を想定しての訓練の実施はあるが、夜間に職員が1名で火災や避難は非常に大変であり、実際に暗い時の訓練の実施が望まれる。また、地震・備蓄・持ち出し品等に対する対策を職員全体で話し合い、共有を図る事で、非常時に慌てる事無く、入居者を安全に支援できる事を期待したい。

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は美味しいものをバランスよく提供している。食事の形態は、トロミ・刻み・お粥・ゼリー等、身体状況に留意している。また、現在は胃瘻の入居者の支援を実施している。食事量や飲水量は個人記録に記入し、不足ないように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは既存の建物の改修したものと、開設時に建設した両ユニット共日本建築である。ホーム内は基より、庭にベンチを置き、入居者の居場所の確保ができており、玄関・居間・廊下・居室等、特別の設えを感じる事無く、一般家庭を思わせるそれぞれの工夫が窺える。現在はホームの横に駐車場と公園を整備中で、音がしているが、日頃は隣接の保育園の子供の声に囲まれた、穏やかなホームである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は居室でゆったり過ごす人と、居間で皆と楽しむ人が居り、居室は、その人の生活が滲み出ている。それぞれ、コンテナ・棚・書籍・化粧品・写真・普賢菩薩等を持ち込み、我が家として安心した居場所になる工夫をしている。		